

万感胸に迫る季節

校長 狩野博臣

1月19日、大学入試センター試験初日の午前8時過ぎ。聞こえてくるノートや参考書をめくる音。長崎県立大学の受験生控室にみなぎる緊張感。この日を迎えるまで、生徒自身にもご家族の皆様にも幾多の苦悩があったことでしょう。

「同志の友よ 君の姿に励まされ 私もがんばる 君もがんばれ」

早朝・放課後補習、土日の学校開放自学、学習合宿・・・。模擬試験の結果に一喜一憂し、焦り、悩み、様々なことを乗り越えて、生徒たちは入試までたどり着きました。大学のトイレでばったり会ったM君が言いました。「やっと（入試当日が）来ました。」本番がもっと先ならばまだ勉強できた、という思いよりも、やっと一つ山が越せるという気持ちが大きかったのだと思います。試験前日、あるお母様が「胃が痛い」とおっしゃいました。戦っているのは子どもだけではありません。支えてきた親もまた手に汗握り、わが子の健闘を祈っていらっしやったことでしょう。

「いざ会場へ 握手する手に力込め 君の背中に「がんばれ！」 念力送る」

「万感の思いです。」学年主任が生徒を試験会場に送り出す直前、発した言葉です。生徒と苦楽を共にしてきた彼の胸には様々な思いが去来していたことでしょう。彼は大勢の他校の受験生や引率教員がいる中で一人、「合格祈願」と染め抜かれた鉢巻きをしていました。“生徒のために”その一途な思いを見ました。ハイタッチや固い握手を交わして、試験会場に送り出す教員の心中には「万感」が巡ったはずです。

「冬の寒さにじっと耐え 桜は花咲く春を待つ」

これから専門学校、私立や国公立大学の入試など、次々と関門がやってきます。精神的にも体力的にもきつい時です。生徒たちはこの努力は報われるのかと不安で一杯だと思えます。しかし、不安を払拭するには努力するしかありません。その努力の先にこそ自信は芽生えるのです。受験に完璧はありません。あるのは「やり切った」という、ある意味の自己満足です。この自己満足が「自分を信じる」ことにつながるのだと思います。限りある時間、やり切りたいと思います。受験は孤独な戦いですが、同時に孤独ではないことを教えてくれるのも受験です。苦しい時には家族や教員が背中を押してくれます。また、すでに進路を確定した仲間たちも一緒に戦ってくれました。ともすれば、進路が決まった生徒たちは自己中心的になり学習にも手を抜きがちですが、自分の卒業後の進路や周囲のことを考え顔晴ってくれました。これが口加の生徒たちのすごさです。

最後に、受験生を持った保護者が書かれた体験記をご紹介します。「親の役割は、子どもががんばるのを後ろから背中を押してあげることです。しかし、成功に近づけば近づくほど、反対に遠くに手放さなければならないという寂しさもあります。受験というのは、親も子も成長する人生のステップのような気がします。」

受験、卒業、そして旅立ち・・・それぞれの立場で万感胸に迫る季節です。

「ありがとう 感謝の気持ち 胸に秘む 合格通知をお返しに」